

## 令和7年度 第2回学校運営協議会 議事録

日時：令和7年12月19日（金） 15：00～ 16：00

場所：校長室

出席者：

学校運営協議員：大東貢生（佛教大学教授）、松宮慎吾（追手門学院大学教授）  
宇佐美和美（寝屋川市立第十中学校長）、雲川真美（PTA会長）  
石田華織（寝屋川地域教育協議会会長）、田中啓昭（社会福祉法人大阪誠昭会理事長）  
※敬称略

本校：浦校長、辻教頭、井上首席、岩田首席、田中教諭、中川事務長

### 1 進路状況

- ・12月1日現在、4年制大学合格者48名。
- ・摂南大学への合格者数が比較的多い。
- ・3年次での4年制大学編入を前提とした短大進学者も複数名いる。
- ・本校は女子生徒が多いため専門学校の進学は看護医療系が多い。
- ・大阪府庁公務員採用者が1名。

### 2 学年行事

- ・満足度は前年より向上（文化祭・体育祭＋5％）。
- ・年度ごとに生徒の行事への取り組み方や教員の働き方が良くなっている。
- ・行事の練習期間が長いことや、入試制度の早期化、複雑化の関係で入試と行事が重なってしまう。
- ・行事の削減ではなく内容改善を検討。

### 3 生徒支援関係

- ・スクールカウンセラー利用11回、今年は保護者からの相談が増加している。
- ・スクールソーシャルワーカーの来校は5回。

### 4 高大連携事業

- ・7月に大阪国際大学短期大学部と1日キャンパスツアーを開催。
- ・10名ほどの生徒が参加し、8名の大学教員がついてツアーを行い、探究の授業を行ってくれた。
- ・佛教大学のゼミ生徒による研究発表を本校にて行ってもらった。出前授業以上に興味・関心度があるイベントだった。

## 5 国際交流事業

- ・関西外国語大学海外留学生グローバルインターシップ受け入れを6月に実施。
- ・2名を受け入れ、授業等を通して交流した。
- ・本校ALTと生徒の交流（昼休みのイングリッシュカフェ）も多くの生徒が参加している。
- ・海外姉妹交流事業を韓国私立宇成（ウソン）高校と推進中。
- ・12月初旬に校長が実際に現地へ向かい視察を行った。
- ・5月に相手校が日本への修学旅行で本校にて交流予定。
- ・打合せのため、2月に3名の方が本校を訪問予定。
- ・7月上旬から下旬にかけて書面にて姉妹校として締結予定。

## 6 環境整備事業

- ・1階と4階廊下の照明をLEDへ改善。
- ・食堂及び、中庭のリニューアル工事実施。
- ・学校説明会において食堂体験の実施や、自治会主催のクリスマス会での利用が新たにされた。
- ・1階事務室前と、職員室にモニターを2台設置した。それぞれ生徒用、職員用に情報を掲載し掲示板として運用している。
- ・茶道室にエアコンの設置。

## 7 地域連携事業

- ・11月に寝屋川市立第十中学校にて開催された「鉢かつぎ祭り」に軽音部が参加。
- ・参加だけでなく出番の後も残り、片付けを行ったことを評価してもらった。
- ・令和8年度はダンス部も参加予定。
- ・韓国の茨木インターナショナルスクールとダンス部が交流予定。
- ・硬式野球部、サッカー部が周辺中学校と交流を進めている。技術指導という形で学校に来ている。
- ・茶道部も他校と合同練習するなどしている。

## 8 教職員研修

- ・大阪府立槻の木高校と合同で研修を行った。本校の指導教諭と槻の木高校の指導教諭、独立行政法人教職員支援機構の方で協力して開催に至った。
- ・授業力アンケートを実施し各先生にフィードバックを行った。
- ・首席2名による教職経験2～5年の教員研修を7月に実施。
- ・3学期には10年目の教員を講師とし、ディスカッション等を中心に行う予定。研修よりハードルを下げて若い教員の実量を発揮させられるような研修を行いたい。
- ・昨年度通り韓国インターナショナルスクールとの交流研修を行う予定。

## 9 働き方改革

- ・伴走型支援事業と提携し研修を行った。
- ・教員それぞれの働き方を見直す機会になった。
- ・長時間勤務を減らすことだけでなく、教員の働きやすさと働き甲斐を実現。
- ・月80時超過勤務者の数が去年度から6名減少して2名に。

## 10 その他

- ・当校の働き方は他校の参考事例となり、評価を受けている。
- ・長時間勤務が減少し、大きく改善された。
- ・単なる「時間削減」ではなく、働き甲斐と働き方の質を重視する必要あり。
- ・地域連携など意欲的な取り組みをしている教員には、やりがいを維持しながら負担軽減を図る。
- ・学校パンフレットを大幅リニューアル。若い視点を取り入れ、期間をかけて作成した。
- ・地域の業者に依頼し、来校促進を目的。
- ・大阪教育ゆめ基金の活用を開始（令和8年度 4ヶ月 3サイクル）。本校でチラシを作成し活動開始。現在約10校がふるさと納税制度を活用している。

## 11 意見交換

### (1) 地域連携について

- ・軽音イベントで地域の方が高校生を高評価（片付けまで協力、礼儀正しさ）。
- ・阜の高校生を地域の方もほめてくれている。
- ・寝屋川市内の中学等では残業時間の45時間超え問題があり、伴走型支援の重要性を再認識した。

### (2) 学校改革

- ・環境整備やリソース確保が進み、生徒のやりたいことが実現できている。
- ・職員のマインドセット改革が大きな要因ではないか。
- ・「やりがい（エンゲージメント）」が今後の重要な指標。
- ・探究活動の成果発表をSNS（例：Instagram）で発信するアイデア。

### (3) 再現性ある改革

- ・「変わる予感」が現実。トップが変わっても続けられる仕組みづくりが必要
- ・言語化・論理化・マニュアル化で再現性を確保。
- ・生徒の承認欲求や高揚感を満たす場を提供（吹奏楽の発表機会など）。
- ・幼児教育との連携で、園児と高校生の交流機会をつくっていききたい。

### (4) 地域・学校間連携の広がり

- ・地域交流や発表機会が増え、小学生側も発表の場を求めている。
- ・協力体制が年々広がり、子どもたちに刺激を与える場が増加。
- ・来年はダンス部の地域発表も期待。
- ・子どもたちが「認めてほしい」と言えるようになったのは改革の成果ではないか。

### (5)

- ・高大連携実施した佛教大学によるゼミ活動で大学生→高校生への働きかけは難しかったが、大学生にも学びがあった。
- ・継続していく為に高校生が大学にどんなイメージを持ったかフィードバックが欲しい。
- ・初めての試みで1年生担任団に内容を伝えきれていなかったのではないかな。
- ・どんな働きかけをすればいいかなどの準備・振り返りまでしっかりやりたい。